

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：心不全 P. 193

はき 8-74 呼吸とその原因との組合せで誤っているのはどれか。

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. 頻呼吸 | — 脳圧亢進 |
| 2. クスマウル大呼吸 | — 糖尿病性アシドーシス |
| 3. 起坐呼吸 | — 心不全 |
| 4. チェーン・ストークス呼吸 | — 尿毒症 |

はき 9-83 症状とその軽減体位との組合せで誤っているのはどれか。

- | | |
|------------|------------|
| 1. うつ血性心不全 | — 起坐位 |
| 2. 一側性気胸 | — 患側上位の側臥位 |
| 3. 一側性胸水 | — 健側上位の側臥位 |
| 4. 腹 痛 | — 仰臥位 |

はき 16-80 「72歳の男性。以前より発作性心房細動を指摘されていた。事務作業中に倒れたが、呼びかけには何とか返答できた。右上下肢は全く動かず、頭痛、嘔吐はなかった。」入院後3日目から意識レベルは低下し、4日目には半昏睡となった。この原因として最も疑わなければならないのはどれか。

1. 急性心不全
2. 出血性梗塞
3. 徐 脈
4. 脳動脈瘤破裂

はき 25-66 心不全について正しいのはどれか。

1. 左心不全では下肢の浮腫は顕著である。
2. 左心不全では臥位で症状が軽快する。
3. 心拍出量が低下する。
4. 血中ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）値が低下する。

はき 31-59 右心不全によくみられる身体所見はどれか。

1. 肺うつ血
2. 頻呼吸
3. 下肢の浮腫
4. 四肢チアノーゼ

はき 32-61 左心不全の身体的所見はどれか。

1. 腹水
2. 下肢の浮腫
3. 肝腫大
4. 起坐呼吸

はき 3-70 僧帽弁狭窄症について正しい記述はどれか。

1. 梅毒によるものが多い。
2. 肺うつ血を生じることは少ない。
3. 心房細動を起こしやすい。
4. 左心室の拡張を伴う。

はき 13-76 心臓弁膜疾患と症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 僧帽弁狭窄症 — 起坐呼吸
2. 僧帽弁閉鎖不全症 — 易疲労性
3. 大動脈弁狭窄症 — 失神発作
4. 大動脈弁閉鎖不全症 — 拡張期血圧上昇

はき 18-67 心臓弁膜症と聴診所見との組合せで正しいのはどれか。

1. 僧帽弁閉鎖不全症 — 頸動脈雜音
2. 大動脈弁閉鎖不全 — 拡張期雜音
3. 僧帽弁狭窄症 — 収縮期雜音
4. 大動脈弁狭窄症 — ランブル

はき 21-80 「71歳の女性。1週間前から労作時の胸痛を自覚していたが、安静で症状は軽減したため放置していた。しかし、昨日より安静時でも胸痛が起るようになり、救急受診した。」

本疾患の合併症としてよくみられるのはどれか。

1. 僧帽弁狭窄症
2. 心室性期外収縮
3. 心房中隔欠損症
4. 気 胸

はき 23-67 僧帽弁狭窄症について正しいのはどれか。

1. 先天性が多い。
2. 心拍出量は増加する。
3. 左房圧は低下する。
4. 心房細動の合併が多い。

はき 24-68 心房細動について正しいのはどれか。

1. 若年者で罹患率が高い。
2. 僧帽弁狭窄症は原因となる。
3. くも膜下出血の発症リスクとなる。
4. 心電図では異常Q波の出現が特徴である。

はき 26-68 僧帽弁狭窄症について正しいのはどれか。

1. 男性に多い。
2. 先天性が多い。
3. 心拍出量が増加する。
4. 心房細動の合併が多い。

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：僧帽弁閉鎖不全症 P. 198

はき 13-76 心臓弁膜疾患と症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 僧帽弁狭窄症 — 起坐呼吸
2. 僧帽弁閉鎖不全症 — 易疲労性
3. 大動脈弁狭窄症 — 失神発作
4. 大動脈弁閉鎖不全症 — 拡張期血圧上昇

はき 18-67 心臓弁膜症と聴診所見との組合せで正しいのはどれか。

1. 僧帽弁閉鎖不全症 — 頸動脈雜音
2. 大動脈弁閉鎖不全 — 拡張期雜音
3. 僧帽弁狭窄症 — 収縮期雜音
4. 大動脈弁狭窄症 — ランブル

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：僧帽弁逸脱症候群 P. 201

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：大動脈弁狭窄症 P. 202

はき 13-76 心臓弁膜疾患と症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 僧帽弁狭窄症 — 起坐呼吸
2. 僧帽弁閉鎖不全症 — 易疲労性
3. 大動脈弁狭窄症 — 失神発作
4. 大動脈弁閉鎖不全症 — 拡張期血圧上昇

はき 17-75 大動脈弁狭窄症で誤っているのはどれか。

1. 拡張期雜音
2. 左室肥大
3. 肺うつ血
4. 心拍出量低下

はき 18-67 心臓弁膜症と聴診所見との組合せで正しいのはどれか。

1. 僧帽弁閉鎖不全症 — 頸動脈雜音
2. 大動脈弁閉鎖不全 — 拡張期雜音
3. 僧帽弁狭窄症 — 収縮期雜音
4. 大動脈弁狭窄症 — ランブル

はき 19-80 「78歳の男性。5年前に高血圧を指摘されたが、自覚症状がないため放置していた。早朝、安静時に突然強い胸背部痛が出現し、救急搬送された。その際に胸部エックス線検査で上縫隔の著明な拡大を認めめたが、心電図上有意な変化はみられなかった。」本疾患による合併症はどれか。

1. 気 胸
2. 間質性肺炎
3. 大動脈弁狭窄症
4. 心タンポナーデ

はき 20-74 大動脈弁狭窄症でみられるのはどれか。

1. 収縮中期のクリック音
2. オープニングスナップ
3. 遅 脈
4. 大 脈

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード:大動脈弁閉鎖不全症 P. 204

はき 13-76 心臓弁膜疾患と症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 僧帽弁狭窄症 一 起坐呼吸
2. 僧帽弁閉鎖不全症 一 易疲労性
3. 大動脈弁狭窄症 一 失神発作
4. 大動脈弁閉鎖不全症 一 拡張期血圧上昇

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード: 不整脈 (心房細動) P. 206

はき 4-70 心電図では診断できない病態はどれか。

1. 心房細動
2. 心臓弁膜症
3. 期外収縮
4. 狹心症

はき 4-81 脳梗塞を起こしやすい不整脈はどれか。

1. 心房細動
2. 心室細動
3. 期外収縮
4. 房室ブロック

はき 6-80 虚血性心疾患の危険因子（リスク要因）はどれか。

1. タンパク尿
2. 不整脈
3. 高尿酸血症
4. 高脂血症

はき 9-74 心房細動に合併しやすい脳血管障害はどれか。

1. 脳血栓症
2. 脳塞栓症
3. 脳出血
4. くも膜下出血

はき 16-79 「72歳の男性。以前より発作性心房細動を指摘されていた。事務作業中に倒れたが、呼びかけには何とか返答できた。右上下肢は全く動かず、頭痛、嘔吐はなかった。」最も考えられるのはどれか。

1. クモ膜下出血
2. 脳血栓
3. 脳塞栓
4. 一過性脳虚血発作

はき 16-80 「72歳の男性。以前より発作性心房細動を指摘されていた。事務作業中に倒れたが、呼びかけには何とか返答できた。右上下肢は全く動かず、頭痛、嘔吐はなかった。」入院後3日目から意識レベルは低下し、4日目には半昏睡となった。この原因として最も疑わなければならないのはどれか。

1. 急性心不全
2. 出血性梗塞
3. 徐脈
4. 脳動脈瘤破裂

はき 23-67 僧帽弁狭窄症について正しいのはどれか。

1. 先天性が多い。
2. 心拍出量は増加する。
3. 左房圧は低下する。
4. 心房細動の合併が多い。

はき 24-68 心房細動について正しいのはどれか。

1. 若年者で罹患率が高い。
2. 僧帽弁狭窄症は原因となる。
3. くも膜下出血の発症リスクとなる。
4. 心電図では異常Q波の出現が特徴である。

はき 26-68 僧帽弁狭窄症について正しいのはどれか。

1. 男性に多い。
2. 先天性が多い。
3. 心拍出量が増加する。
4. 心房細動の合併が多い。

はき 30-61 不整脈で予後が最も良いのはどれか。

1. 心室細動
2. 心房細動
3. 上室性期外収縮
4. III度房室ブロック

はき 32-60 AED による徐細胞の適応となる不整脈はどれか。

1. 心室細動
2. 心房細動
3. 心室性期外収縮
4. 上室性期外収縮

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：心室中隔欠損症 P. 207

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：心房中隔欠損症 P. 208

はき 19-68 心房中隔欠損症で誤っている記述はどれか。

1. 欠損は卵円孔型が多い。
2. 肺動脈領域に収縮期雜音を聴取する。
3. 右房の拡大がみられる。
4. 肺血流量が体血流量より少ない。

はき 21-80 「71歳の女性。 1週間前から労作時の胸痛を自覚していたが、安静で症状は軽減したため放置していた。しかし、昨日より安静時でも胸痛が起こるようになり、救急受診した。」

本疾患の合併症としてよくみられるのはどれか。

1. 僧帽弁狭窄症
2. 心室性期外収縮
3. 心房中隔欠損症
4. 気 胸

はき 1-84 階段を上がる時、前胸部に圧迫感が生じ、数分の安静で軽快するという症状を訴えた場合、最も考えられる疾患はどれか。

1. 労作時狭心症
2. 安静時狭心症
3. 異型狭心症
4. 心筋梗塞

はき 2-71 狹心症で異常を示さない検査はどれか。

1. 安静時心電図
2. 運動負荷心電図
3. 冠状動脈造影
4. 血中GOT

はき 4-70 心電図では診断できない病態はどれか。

1. 心房細動
2. 心臓弁膜症
3. 期外収縮
4. 狹心症

はき 5-80 ペインクリニックの対象となる疾患はどれか。

1. 胆石症
2. 狹心症
3. レイノ一病
4. 大動脈瘤

はき 6-78 労作性狭心症発作の特徴でない記述はどれか。

1. 食事によっても誘発される。
2. 安静によって軽快する。
3. 持続時間は 30 分以上である。
4. ニトログリセリンが有効である。

はき 10-75 心電図で異常Q波が出現する疾患はどれか。

1. 心筋梗塞
2. 狹心症
3. 急性心膜炎
4. 慢性収縮性心膜炎

はき 23-68 狹心症について正しいのはどれか。

1. 心電図ではP波の変化が特徴である。
2. 発作時にはニトログリセリンが有効である。
3. 冠攣縮型による狭心症は日中に起こりやすい。
4. 不安定狭心症は心筋梗塞へ移行しにくい。

はき 26-67 狹心症について正しいのはどれか。

1. 異型狭心症は日中に起こりやすい。
2. 狹心痛は大動脈壁の内膜に生じた亀裂に血液が流入することで生じる。
3. 心エコー検査で心臓の動きは正常である。
4. 発作時の治療に抗血小板薬が用いられる。

はき 27-64 続発性高尿酸血症の原因とならないのはどれか。

1. 白血病
2. 腎不全
3. 狹心症
4. 多発性骨髄腫

はき 31-68 労作性狭心症と急性心筋梗塞で、最も違いが明確なのはどれか。

1. 胸痛の持続時間
2. 呼吸困難の程度
3. 放散痛の部位
4. 症状出現の時刻

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：心筋梗塞 P. 210

はき 1-83 急性心筋梗塞の所見で誤っているのはどれか。

1. GOT の上昇
2. 軽度または中等度の発熱
3. 白血球減少
4. 赤沈促進

はき 4-69 心筋梗塞の診断上有用でない酵素はどれか。

1. GPT
2. GOT
3. CK
4. LDH

はき 5-70 心筋梗塞について正しいのはどれか。

1. 血清GPT上昇
2. ニトログリセリンが有効
3. 白血球減少
4. 心電図異常Q波

はき 10-75 心電図で異常Q波が出現する疾患はどれか。

1. 心筋梗塞
2. 狹心症
3. 急性心膜炎
4. 慢性収縮性心膜炎

はき 11-73 心筋梗塞で誤っているのはどれか。

1. 心電図異常Q波
2. CRP陽性
3. AST(GOT)高値
4. 赤血球数増加

はき 15-76 肋間神経ブロック後に突然の咳、胸痛、呼吸困難を生じた。最も考えられるのはどれか。

1. 気胸
2. 気管支喘息発作
3. 急性心筋梗塞
4. 解離性大動脈瘤破裂

はき 17-76 心筋梗塞の心電図変化で誤っているのはどれか。

1. ST上昇
2. 異常Q波
3. 冠性T波
4. P-Q時間短縮

はき 22-65 急性心筋梗塞の検査項目で最も有用性が高いのはどれか。

1. 赤血球数
2. コリンエステラーゼ
3. トロポニンT
4. ALP

はき 23-68 狹心症について正しいのはどれか。

1. 心電図ではP波の変化が特徴である。
2. 発作時にはニトログリセリンが有効である。
3. 冠攣縮型による狭心症は日中に起こりやすい。
4. 不安定狭心症は心筋梗塞へ移行しにくい。

はき 31-68 労作性狭心症と急性心筋梗塞で、最も違いが明確なのはどれか。

1. 胸痛の持続時間
2. 呼吸困難の程度
3. 放散痛の部位
4. 症状出現の時刻

はき 32-62 急性心筋梗塞で上昇する血液検査項目として最も適切なのはどれか。

1. γ -GTP
2. ALP
3. ALT
4. AST

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：動脈硬化症 P. 212

はき 2-69 動脈硬化症を増悪しない血中因子はどれか。

1. 総コレステロール
2. 中性脂肪
3. HDLコレステロール
4. LDLコレステロール

はき 5-85 疾患と検査所見との組合せで誤っているのはどれか。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 痛風 | — 血清尿酸値上昇 |
| 2. 動脈硬化症 | — 総コレステロール値上昇 |
| 3. 全身性エリテマトーデス | — 抗核抗体陽性 |
| 4. 慢性関節リウマチ | — LE細胞現象陽性 |

はき 8-79 動脈疾患とその症状との組合せで誤っているのはどれか。

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 解離性大動脈瘤 | — 体幹部激痛 |
| 2. 閉塞性動脈硬化症 | — 虚血性潰瘍 |
| 3. レイノ一病 | — 間欠性跛行 |
| 4. 大動脈炎症候群 | — 機骨動脈拍動減弱 |

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：大動脈瘤 P. 214

はき 5-80 ペインクリニックの対象となる疾患はどれか。

1. 胆石症
2. 狹心症
3. レイノ一病
4. 大動脈瘤

はき 8-79 動脈疾患とその症状との組合せで誤っているのはどれか。

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 解離性大動脈瘤 | — 体幹部激痛 |
| 2. 閉塞性動脈硬化症 | — 虚血性潰瘍 |
| 3. レイノ一病 | — 間欠性跛行 |
| 4. 大動脈炎症候群 | — 機骨動脈拍動減弱 |

はき 14-75 腰背部痛の原因で生命の危険をきたすのはどれか。

1. 腰部脊柱管狭窄症
2. 子宮内膜症
3. 尿管結石
4. 解離性大動脈瘤

はき 15-76 肋間神経ブロック後に突然の咳、胸痛、呼吸困難を生じた。最も考えられるのはどれか。

1. 気 胸
2. 気管支喘息発作
3. 急性心筋梗塞
4. 解離性大動脈瘤破裂

はき 20-67 閉塞性肥大型心筋症でみられるのはどれか。

1. 大動脈圧上昇
2. 突然死
3. 胸部大動脈瘤
4. 肺動脈弁狭窄症

はき 24-80 「50歳の男性。大酒家である。軽度の意識障害で受診した。眼球の黄染、胸部のクモ状血管拡張と著明な腹水がみられた。また、上肢の不規則な運動が認められた。」本疾患でよくみられる合併症はどれか。

1. 大動脈瘤
2. 食道靜脈瘤
3. マロリー・ワイス症候群
4. 大腸憩室炎

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：大動脈解離 P. 215

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：高血圧 P. 216

はき 2-70 二次性高血圧の原因とならない疾患はどれか。

1. 褐色細胞腫
2. アルドステロン症
3. アジソン病
4. バセドウ病

はき 3-75 アジソン病の症状でないのはどれか。

1. 易疲労性
2. 色素沈着
3. 高血圧
4. 無月経

はき 5-73 腎疾患で高血圧を特徴としないのはどれか。

1. ネフローゼ症候群
2. 慢性糸球体腎炎
3. 急性糸球体腎炎
4. 腎硬化症

はき 5-82 心身症として適切でない疾患はどれか。

1. 本態性高血圧症
2. 気管支喘息
3. うつ病
4. アトピー性皮膚炎

はき 5-86 内分泌疾患とその症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 糖尿病 — 多尿
2. 褐色細胞腫 — 高血圧
3. バセドウ病 — 眼球陥凹
4. 先端巨大症 — 舌の肥大

はき 7-76 高血圧がみられない疾憲はどれか。

1. 原発性アルドステロン症
2. クッシング症候群
3. アジソン病
4. 褐色細胞腫

はき 12-78 高血圧症の臨床所見でみられないのはどれか。

1. 蛋白尿
2. 心肥大
3. 血中ナトリウム上昇
4. 眼底細動脈狭細

はき 13-70 次の文で示す患者で最も考えられるのはどれか。

「45歳の男性。高血圧、多尿、四肢麻痺、低カリウム血症、高ナトリウム血症を認めた。」

1. 尿崩症
2. 原発性アルドステロン症
3. 褐色細胞腫
4. 副甲状腺機能亢進症

はき 14-71 巨人症でみられないのはどれか。

1. 発汗過多
2. 高血圧
3. 筋緊張亢進
4. 月経異常

はき 17-79 「69歳の女性。10年前から高血圧症にて内服加療中。時々右上下肢のしびれを自覚していたが、最近物忘れがひどくなってきた。また、わけもなく泣いたりすることも多い。物忘れが多いわりに判断力は保たれている。」最も考えられるのはどれか。

1. アルツハイマー病
2. 脳血管性認知症
3. ピック病
4. プリオン病

はき 17-80 「69歳の女性。10年前から高血圧症にて内服加療中。時々右上下肢のしびれを自覚していたが、最近物忘れがひどくなってきた。また、わけもなく泣いたりすることも多い。物忘れが多いわりに判断力は保たれている。」この症例に対する対応で適切でないのはどれか。

1. 要求があった場合は、それを満たすように対応する。
2. 失敗した時は叱る。
3. 外出を希望した場合は、断らず付き合う。
4. 簡単な仕事を与え、それができればほめる。

はき 19-79 「78歳の男性。5年前に高血圧を指摘されたが、自覚症状がないため放置していた。早朝、安静時に突然強い胸背部痛が出現し、救急搬送された。その際に胸部エックス線検査で上縦隔の著明な拡大を認めだが、心電図上有意な変化はみられなかった。」本疾患の診断のため、直ちに施行すべき検査はどれか。

1. 24時間ホルター心電図
2. 運動負荷心筋シンチ
3. 胸腹部造影 CT
4. 気管支内視鏡

はき 19-80 「78歳の男性。5年前に高血圧を指摘されたが、自覚症状がないため放置していた。早朝、安静時に突然強い胸背部痛が出現し、救急搬送された。その際に胸部エックス線検査で上縦隔の著明な拡大を認めだが、心電図上有意な変化はみられなかった。」本疾患による合併症はどれか。

1. 気胸
2. 間質性肺炎
3. 大動脈弁狭窄症
4. 心タンポナーデ

はき 20-73 慢性腎不全でみられるのはどれか。

1. 多血症
2. 血清尿素窒素低値
3. 低リン血症
4. 高血圧症

はき 23-77 「45歳の男性。高血圧、頻拍発作の精査で受診。血中ナトリウム、カリウム値は正常範囲内であったが、腹部CTにて右副腎部に腫瘍病変を認めた。」本患者によくみられる所見はどれか。

1. 頭 痛
2. 発汗量減少
3. 低血糖
4. 貧 血

はき 23-78 「45歳の男性。高血圧、頻拍発作の精査で受診。血中ナトリウム、カリウム値は正常範囲内であったが、腹部CTにて右副腎部に腫瘍病変を認めた。」本疾患の診断に最も有用な測定項目はどれか。

1. 尿中アルブミン
2. 尿中アミラーゼ
3. 血中カテコールアミン
4. 血中CK

はき 26-59 骨密度が保たれていても骨折を起こしやすいのはどれか。

1. 糖尿病
2. 高血圧症
3. 脂質異常症
4. 高尿酸血症

はき 28-62 高血圧と耐糖能異常のいずれも認めないのはどれか。

1. 褐色細胞腫
2. アジソン病
3. クッシング症候群
4. 原発性アルドステロン症

はき 28-79 「60歳の男性。高血圧にて内服加療中。2日前から 38°Cの発熱、昨日から嘔吐と頭部全体の痛みがある。意識レベルはJCSでI-1、血圧は178/90mmHgである。」最も考えられる疾患はどれか。

1. 高血圧性脳症
2. 隹膜炎
3. 群発頭痛
4. 小脳出血

はき 28-80 「60歳の男性。高血圧にて内服加療中。2日前から 38°Cの発熱、昨日から嘔吐と頭部全体の痛みがある。意識レベルはJCSでI-1、血圧は178/90mmHgである。」本症例で確認すべき所見はどれか。

1. ケルニッヒ徵候
2. ホルネル徵候
3. バレー徵候
4. ロンベルグ徵候

はき 29-70 膵癌のリスクファクターでないのはどれか。

1. 糖尿病
2. 慢性膵炎
3. 噫煙
4. 高血圧

はき 30-55 高血圧性脳出血が最も好発する部位はどれか。

1. 被殻
2. 視床
3. 橋
4. 前頭野

はき 32-67 膵癌のリスクファクターとして正しいのはどれか。

1. 高血圧症
2. 脂質異常症
3. 高尿酸血症
4. 糖尿病

臨床医学各論 循環器疾患 キーワード：低血圧

はき 1-81 脳血管障害で誤っているのはどれか。

1. くも膜下出血は低血圧の人多い。
2. 脳塞栓症は心臓疾患の人多い。
3. 脳血栓症は脳梗塞の原因となる。
4. 左側の脳血管障害は失語症を伴うことが多い。

はき 7-85 神経疾患と所見との組合せで正しいのはどれか。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 多発性硬化症 | — 體液タンパク減少 |
| 2. 多発性神経炎 | — 痿性麻痺 |
| 3. 脊髄癆 | — 腱反射亢進 |
| 4. シャイ・ドレーガー症候群 | — 起立性低血圧 |

はき 12-77 低血圧がみられる疾患はどれか。

1. クッシング症候群
2. コン症候群
3. シモンズ病
4. レイノ一病

はき 13-71 アジソン病の症状で ACTH 増加によるのはどれか。

1. 腋毛脱落
2. 色素沈着
3. 低血圧
4. 低血糖

はき 14-72 代謝疾患について誤っている組み合わせはどれか。

1. 高尿酸血症 — 腎不全
2. 高コレステロール血症 — 急性胰炎
3. 糖尿病 — 起立性低血圧
4. 肥満症 — 睡眠時無呼吸症候群

はき 17-74 副腎の疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

1. 原発性アルドステロン症 — 高カリウム血症
2. クッシング症候群 — 高血糖
3. 褐色細胞腫 — 低血圧
4. アジソン病 — 多毛

はき 18-63 パーキンソン病の非運動症状として適切なのはどれか。

1. 視力障害
2. 失語症
3. 起立性低血圧
4. 乏尿

はき 18-73 クッシング病でみられやすいのはどれか。

1. 月経異常
2. るいそう
3. 低血圧
4. 脱毛

はき 19-67 アジソン病でみられないのはどれか。

1. 多毛
2. 黒色斑点
3. 低血圧
4. 月経異常

はき 20-68 原発性アルドステロン症で正しいのはどれか。

1. 低血圧
2. アルカローシス
3. 高マグネシウム血症
4. 血漿レニン活性高値

はき 21-79 「71歳の女性。1週間前から労作時の胸痛を自覚していたが、安静で症状は軽減したため放置していた。しかし、昨日より安静時でも胸痛が起こるようになり、救急受診した。」

本疾患の危険因子として最も重要なのはどれか。

1. 低血糖
2. 低血圧
3. 低HDL血症
4. 低アルブミン血症

はき 22-71 腎疾患と所見との組合せで正しいのはどれか。

1. 急性糸球体腎炎 ————— 低血圧
2. ネフローゼ症候群 ————— 低コレステロール血症
3. 急性腎不全 ————— 代謝性アシドーシス
4. 慢性腎不全 ————— 低リン血症

はき 28-73 脳卒中の急性期リハビリテーションについて正しいのはどれか。

1. 神経症状の増悪がある場合には動作を伴う訓練は行わない。
2. 起立性低血圧に対する配慮は必要ない。
3. 歩行訓練で長下肢装具を用いることはない。
4. ベッド上でのポジショニングは必要ない。

はき 33-69 パーキンソン病でよくみられるのはどれか。

1. 下痢
2. 発汗低下
3. 唾液減少
4. 起立性低血圧